

大阪薬科大学報

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



2015年(平成27年)12月20日発行

72

CONTENTS

特待奨学生表彰	第11回大阪薬科大学特待奨学生表彰	学生部長 教授 春沢 信哉…… 3
在学生へのメッセージ	最近の大薬生に想うこと	教務部委員 准教授 藤森 功…… 4
	学生生活と将来設計	学生部委員 教授 永井 純也…… 5
	就活に備えて心掛けておいて欲しいこと	キャリアサポート部委員 准教授 和田 俊一…… 6
大薬祭2015	第50回大薬祭を終えて	学生部長 教授 春沢 信哉…… 7
	第50回大薬祭「Cheers! ～ the 50th～」を終えて	大薬祭実行委員長 松本 奨太…… 9
FD 活動	FD 活動の現状と課題	FD 委員長 教授 辻坊 裕……10
人権講演会	人権講演会を開催しました	人権委員長 教授 福永理己郎……11
公開教育講座	平成27年度公開教育講座およびサテライトセミナーを終えて	公開教育講座委員長 教授 島本 史夫……12
市民講座	大阪薬科大学の社会貢献活動—平成27年度市民講座委員会からの報告—	市民講座委員長 教授 松村 人志……14
三大学医工薬連携 科学教育研究機構	三大学医工薬連携科学教育研究機構の活動状況 (その9)	准教授(特任) 銭田 晃一……16
学生相談室だより	快適睡眠生活のすすめ	学生相談室相談員 西田 裕子……18
事務局だより	総務課……19	教務課……22
	入試課……23	臨床教育・研究支援課……24
	学生課(健康管理支援室を含む)……24	キャリアサポート課……28
	図書・情報課……29	
大学・同窓会共催 学術講演会	第4回大阪薬科大学学術講演会 in 東京(お知らせ)	……31
薬用植物の紹介	ウメ(バラ科)	薬用植物園長 教授 谷口 雅彦 薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介…巻末



本学は公益財団法人大学基準協会による2011(平成23)年度認証評価の結果、2012(平成24)年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

認定期間：2012(平成24)年4月1日より
2019(平成31)年3月31日



今井凌雪先生の書(原本) —本学資料展示室所蔵—

昭和59(1984)年、本学創立80周年を記念して揮毫していただく。これを基にした石板プレートが旧松原校舎の正門横の壁にはめ込まれていた。現在、実物は創立100周年を記念して建立された学歌碑(C棟正面入口手前)に取り付けられている。

第11回大阪薬科大学特待奨学生表彰

学生部長 教授 春沢 信哉

優秀な成績で特待奨学生に選ばれた皆様に心から敬意を表します。

特待奨学生のうち、学部学生については、前年度の「学業成績が優秀でかつ学生生活における態度」などを慎重に審議し、最終的に教務部委員会及び学生部委

員会において決定いたしました。大学院の新入生については「大学院入試成績が優秀な者」を、また、大学院の在在学生については、研究内容のプレゼンテーションを行っていただき、大学院委員会のメンバーがそれを評価し、「有望な研究を行っている」という観点から、大学院委員会で最終決定しました。学部、大学院で特待奨学生に選ばれた皆様は、本学学生の模範として、学生全体を牽引する存在として今後もさらに精進して下さいようお願い申し上げます。

大学院新入生及び現2年次生から5年次生の表彰式は5月に、大学院2年次生から博士後期課程学生は10月に行われました（学外実務実習の関係で5年次生は、5月7日に行いました）。表彰式では、浜岡理事長、政田学長、浦田教務部長、指導教授、アドバイザーなどが臨席され、奨学金目録の授与、訓示がありました。



5年次生特待奨学生表彰式（5月7日）



大学院新入生及び学部特待奨学生表彰式（5月28日）



大学院特待奨学生表彰式（10月22日）

平成27年度 大阪薬科大学特待奨学金 表彰者一覧

学部学生（最優秀者1名、特別優秀者2名、優秀者4名の順）

2年次生：吉田 舞衣 山本 哲也 谷口 菜優 梅井 瑞季 林 徳男 坂東 実佳 澤 弦矢
 3年次生：勝見 菜奈 米田杏寿美 杉浦 裕磨 井上 梨沙 久喜 優実 山田 唯 和田 伸也
 4年次生：山下 力也 篠田 薫子 辻本 拓真 篠山 淳美 大平 明香 宇野佐和子 芳野 由奈
 5年次生：山口 万穂 中谷 優花 今中あゆみ 谷 佳美 航 英彰 神明真奈美 平生 幸佐

大学院学生

博士前期課程1年次生：向井 崇浩 上村 健司

博士前期課程2年次生：富田 秀明

博士後期課程3年次生：越智 洋輔

最近の大薬生に想うこと

教務部委員 准教授 藤森 功

私は10年余りの企業勤務を経て、大阪薬科大学に着任して来春で9年になります。企業勤務当時や本学着任当初に大薬生に抱いていた印象は、真面目な学生が多く、薬剤師資格取得や技術者・研究開発者などの道に進むという明確な目標をもっているのもモチベーションが高い、というものでした。しかし、現状を見ると、学生の様子が以前と比べて明らかに変化してきているように思います。私が最近の大薬生について想う2つのことについて書かせていただきます。

一つは、講義や試験についてです。講義中に何の遠慮もなく教室から出て行ったり（トイレかもしれませんが）、携帯電話やスマートフォンなどを触り、講義を集中して聴いていない学生がいます。「講義を聴いてもよく分からない」、「何を言っているか分からない」などという声を聞きますが、大学の講義内容は、限られた講義時間だけでは理解できないこともたくさんあるはずですが、分からないことは質問し、また、自分で調べ、知識を増やしていくところが大学ではないでしょうか。

また、定期試験については、ここ数年の状況は目に余るものがあります。正当な理由もなく試験を欠席したり、この科目は「再試験まわし」などと、いわゆる「捨てる」という行為に走り、本試験を放棄あるいはほぼ白紙の解答用紙を出す学生がいます。一部の学生だけであると信じたいのですが、単位を取ることだけが目標になっていないのでしょうか。試験前の短時間に、「一夜漬け」や「過去問の丸暗記」だけで試験を受けに来る学生もいるようです。「講義に出なくても試験は合格できる」などという先輩らの戯言はもう聞くべきではありません。あわよく、その科目の単位を取れても、その知識は身につくのでしょうか。知識は積み重ねによって成り立っており、普段からの努力（知識の積み重ね）が必要です。

「水は低きに流れ、人は易きに流れる」と言いますが、楽をして暮らしていけるのならいいのですが、世の中そう甘くはありません。易きに流れる流れに逆らう強い意志をもち、流されずに進む努力が必要です。この流れに流されていく先は、おそらく、自分の志とは程遠いところであり、大抵、その結果を世間や他人のせいにしてしまいます。全て学生が悪いとは言いませんが、学生自身に帰するところも少なからずあるのではないのでしょうか。

薬学部は厳しい、勉強ばかりだという声をよく聞きますが、薬学部の卒業生の多くが、病院、薬局、企業や官公庁等で、人の生命に関わる業務に就いていることを考えれば、少々厳しくても良いのではないのでしょうか。もし自分や自分の家族が患者の立場に立ったときに、しっかりと知識のない薬剤師に、安心して相談できるでしょうか。大薬生には決してそのような薬剤師、あるいは技術者・研究開発者などにはなって欲しくないと思ふのは、私だけではないと思います。大薬生は社会の期待に応えるだけの素質を十分に備えていると思います。しかし、本学の入試の偏差値が薬学系では上位にあるにもかかわらず、4年次の薬学共用試験のCBTや6年次の薬剤師国家試験において得点がいまひとつ伸び悩む学生がいる理由の一つとして、普段からの知識の積み重ねの不足があるのではないのでしょうか。やはり自学自習を含めた普段からの努力（知識の積み重ね）が大切です。

もう一つは、大薬生の多くに見られる「強い依存心」です。我々を信じて依存してくれるのはありがたいことですが、特に感じるのは、「最後には何とかしてくれる（単位をもらえる）」という空気が充満していることです。誰かが何とかしてくれるなどという甘い考えは、社会に出ればすぐに誤りだということに気付くでしょう。やり方を覚えることはできても、「自ら考え動く」という最も必要とされる状況適応能力が不足している学生が少なからずいます。今の学生の多くは、予備校や塾で至れり尽くせりの指導を受けることに慣れ、自分で計画的に物事（勉強）を行う習慣がないように思います。みな横並びという初等教育の教えによるものかもしれませんが、大薬生は、いい意味で、もう少し貪欲で、もっと自信をもって自分を出して欲しいと思います。せっかく備えている能力を十分に出し切れていない学生がいるように思います。

理想を言えば、大学での勉強は大学にいる間に完結させておかなければいけません。社会に出てから、必要になれば勉強すればいいというような考えは間違いです。社会に出れば、新たなことや大学で学んだ内容をさらに発展させた内容を勉強していかなければなりません。学生時代にもっと勉強しておけばよかったと思うことのないように、この機会にぜひ、自分を見つめ直し、大学生活について一考することを望みます。

学生生活と将来設計

学生部委員 教授 永井 純也

在学生の皆さんは、現時点で将来の設計図をどのように描いていますか。そう尋ねられて「私はですね」と、自分の将来像を明確に述べるができる方、とても素晴らしいです。「先んずれば…」と言われるように、早くから目標が定まっていれば自ずと「それを叶えるためには、どのようなことをすればよいか」ということを常に意識するようになり、積極的で計画的な行動に結びついていくものと思います。

一方、「そのようなこと（将来のこと）をよく尋ねられるのだけど、数ある道の中から一つに決めきれなくて迷っている」という方もいるのではないのでしょうか。これはこれで私としては素敵なことと感じます。将来の自分への可能性を考えれば考えるほど、「この仕事に就いてみたい。でも、あの仕事も自分に合っているのではないだろうか」と気持ちが大きく揺れ動くこともあるでしょう。例えば、「医療現場で薬剤師として患者さんと接することで、人の役に立っていることを実感できる仕事をしてみたい」と思っていたところに、日本人のノーベル賞受賞に刺激されて、「新薬を発見して、世界中の多くの人々を健康にすることに貢献したい」と思いが変わることもあるかも知れません。こうした状況になるのも、将来の方向性が多様である薬学の特徴であるがゆえにも言えます。

また、低学年の方であれば「まだ先のことだし、現在は目の前の熱中していることに、とりあえず一生懸命に頑張ることだけで精一杯」という方もいるでしょう。学生の間でしか出来ないことは多くありますので、こうした学生生活を送ることも一つの選択肢です。このような場合では、タイミングさえ逸しなければ、意識する対象が具体的な進路に切り替わったときには、大きく前進していけるものと期待できます。

私自身が学生の時のことを述べますと、あまり立派なことは言えません。大学教員になるという将来像は学部生の時にはほとんど描けていませんでした。四回生で研究室に配属するまでは、「研究室という限られた空間に朝から晩までいるなんて、自分には合わないかも」と大した情報も集めることもなく漠然と考えていたように思います。

しかし、研究室配属後に始めた研究生活が私にとっ

て大きな転機となりました。研究室で研究生活を送るようになり、私は研究室での生活を物理的な空間でしか考えていなかったことが分かってきました。研究室の先生方はもちろんのこと、1年上の先輩方と比較しても、配属したばかりの自分との圧倒的な知識量の違いに驚かされました。また、研究は行えば行うほど、裾野が広がっていくような感じで果てしなく、限定されているどころか、ブラックホールのように全くつかみどころがなく感じました。しかし、そうした中でも地道に研究を行う中で新たな発見に刺激されたり、結果をまとめていく作業において講義で習った理論や法則を当てはめたりする過程には、それまでに経験したことのない充実感を感じました。それからは、大学院進学は当たり前のように考えるようになり、さらには大学教員として研究や教育に携わりたいと強く思うようになりました。

皆さんの中には、勉強以外のことに一生懸命になりすぎて、学業成績があまり芳しくない方もいるかも知れません。学生である以上は、まずはしっかりと学業に打ち込むことは当然ではあります。しかし、その一方で、自分が学業以外でも自信を持って一生懸命に行ったことがあれば、それはそれで学業成績には必ずしも反映しにくい「人間力」のようなものとして身につけているかも知れません。こうした「人間力」も医療人では特に必要とされています。何度も述べますが、学生である以上は学業が最優先です。卒業してこそ、大学に入学した意義を全うできます。それを十分に理解した（基礎学力を身につけた）うえで、「自分には、他の人が持たない、こういうプラスアルファ（オリジナリティ）がある」と言えるのであれば、将来像を見定めた時、それは道を切り開く大きな力になってくることでしょう。

学生生活において、自分が大事とする「こだわり」のようなものを一つは持つておくとうまいように思います。そして、皆さんは「薬」を学ぶ薬学生であることを常に心に留めておきながら、将来になりたい自分になれるように貴重な学生生活を有意義にエンジョイしてください。

就活に備えて心掛けておいて欲しいこと

キャリアサポート部委員 准教授 和田 俊一

皆さんはやがては卒業し、親元を離れ社会人となり独立していくでしょう。社会人になると生活の大半を仕事と関わることになり、自分自身にマッチする職業を選択することは、より質の高い人生を送るうえで重要であることと思います。そのスタートである就職、さらに就職後のキャリアデザインをサポートするのがキャリアサポート部およびキャリアサポート課です。ここでは、キャリアサポートの取り組みの一端を紹介し、最近感じていること、就活を念頭に置いて是非行っておいて欲しいこと、心掛けておいて欲しいことを書いておきたいと思います。

キャリアサポート課では様々なセミナーを開催しています。その中で最も大きく、活気溢れる取り組みの一つとして「職種紹介学内セミナー」が挙げられます。毎年4月頃に企業、薬局、病院、官公庁などの各団体の人事関係者（時には卒業生）を本学に招いて、face to faceで話ができる機会を提供しています。本来なら各団体が主催するセミナーに出かけていき、アウェイ感覚で緊張しながら説明を受けなければいけないところが、ホームである本学で開催されることから、学生はリラックスして参加できているようです。学生は6年次生を中心に、5年次生、数は少ないですが1～4年次生の学生が参加しており、学生の積極的な姿勢や態度が見られ、我々が見ていると頼もしさを感じます。これだけ異なる多数の団体が一度に集まって話を聞ける機会はなかなかないと思うので、各団体の知名度や経営規模だけにこだわらず、いろいろな団体と接触し、自分にマッチした職種や就職先を探して頂ければと思います。まだ一度も参加したことのない学生は是非、覗いてみてください。必ず将来の参考になります。

しかし残念に思うこともあります。上記のような頼もしい学生がいる一方で、薬系の職種を全く知らない人や自分の進路について全く考えていない人が高学年でも少なからずいるということです。本学の学生の特徴(?)で、「面倒な事やしんどい事は後回し」的なのところがあるのでしょうか？ 自分の将来なのだから真剣に考えて欲しいし、せめて薬系の職種にはどういうものがあるかぐらいは知っておいて欲しいものです。

最後に就活を意識してこれだけは行っておいて欲しい、心掛けておいて欲しいことは、

- 新聞を読むこと。(世の中の情勢を知っておくことは社会人としての常識です。最近、こんな記事が出ていました。皆さんはご存知ですか？「2017年春に卒業を予定する学生が来年に取り組む就職活動について、経団連は、企業の採用選考の開始を8月から6月に前倒しする方針を発表した。」)
- 薬系の職種について調べておくこと。(5年次生にはキャリアサポート課から「大阪薬科大学就活事典2015」を配布しています。)
- 笑顔で挨拶ができるようにすること。(これが意外と難しいようです。挨拶はコミュニケーションの始まりです。)
- キャリアサポート課が主催するセミナーに積極的に参加すること。(最近、セミナーの出席率が低いようです。)
- 自分自身がやりたいことを見つけること。

皆さんはYDK(やればできる子)なのだから、以上を心掛けて頑張ってください。



職種紹介学内セミナーの様子



キャリアサポート資料室利用状況



公務員対策講座

第50回大葉祭を終えて

学生部長 教授 春沢 信哉

平成27年10月30日(金)、31日(土)、11月1日(日)の3日間は、晴天に恵まれ、紅葉が映える中、第50回大葉祭が盛大に催されました。今年は、50回目の記念の開催となり、そのテーマも「Cheers! ~the 50th~」とされました。実行委員長は、3年次生の松本奨太君、副実行委員長を熊井あみさんが務め、他132名の実行委員の皆さんが総務部、装飾部、広報部、リサイクル部、イベント部を担当して準備が夏休み頃から進められました。また、4年次生の20数名が炊き出しをするということで、私の所に徹夜届を出しに来るといふ熱の入れようでした。

近頃では、近隣の大学では、世話人が集まらず大学祭を1日に短縮したり、本学学友会にあたる学生の自治会組織も出来ない大学が多くなっていると聞いています。そのような風潮にあっても、本学では先輩から後輩に、50回もの長きにわたって続いてきたことに、かつて本学の学生として、大葉祭を手伝った一人として、学生の皆さんへの敬意と共にある種の感慨を覚えずにいられませんでした。

会場は、色とりどりの手作り看板や幕で彩られ、各種のイベントが野外ステージ、体育館、学生会館ホール、グラウンドの他、いくつかの教室でも行われました。初日の午前中から、構内では野外ステージの音楽

が響き、中庭にはいつものように仮設テントで各クラブが食べ物を販売し、にぎやかに進行していきました。私も、焼きそば、から揚げなどを野外ステージ前の椅子で食べていましたが、塩味は、控えめにさせていただきたいと思いました。午後は、コーラス部の清澄でのびやかな歌声が校内に響きとてもすてきな気分になりました。夕方5時からの体育館で始まった「Daiyaku Collection」は、各クラブ、サークルの3人一組の女子学生のダンスですが、皆さんとても愉快で創意工夫に富む振り付けで大変楽しませていただきました。

2日目の土曜日は、「薬用植物園の説明会」、小学生のための「科学実験室」、グラウンドでは「フリーマーケット」なども加わり、近所の家族づれも多く、大変なにぎわいでした。私は、毎年、学生会館での茶道部の「お茶会」に行くことを楽しみにしています。今回も午前中に学生のお点前を拝見しながら、お茶とお菓子をいただき、指導されている西美紀子先生らと楽しくお話をすることが出来ました。午後3時からの野外ステージでの「アンサンブルサークルの発表」は、楽しみにしていましたが、この頃には急に風が強くなり、演奏中に楽譜が飛んだり、楽譜台が倒れたりしてアンサンブルの皆さんは足で楽譜台を支えながらの気の毒な演奏となりましたが、最後まで懸命にやり遂げられました。演奏の後、親しいアンサンブルの学生に聞いてみると、アンサンブルは、以前よりかなり人数も増えていること、定期演奏会がなく、五月祭と大葉祭を発表の場に行っているという話でした。私は、アンサンブルやコーラス部などは、大学の講堂で定期演奏会を共同開催すればいいのではないかと思います。そうすれ



それでは皆さんと一緒に…乾杯



Daiyaku Collection



ALL in (ダンス部発表)

1日目



ふわふわびよんぴよん



薬用植物園見学会

2日目



ストレッチナーライブ



ライブ喫茶



フリーマーケット



お茶会

ば、多くの家族、友人、大学関係者が集まることが出来、身近で音楽を楽しむことが出来るのではないかと考えます。5時からは体育館で人気グループの「ストレッチナーライブ」があり、大勢が来場し、始まると同時に皆が一斉に立ち上がっての声援でした。最初は、私の慣れない音楽かと思いましたが、演奏者の話などを聞いていくうちに、若い彼らに好感が持てるようになりました。

3日目には、学友会の皆さんがC棟の教室で生薬の数種のお茶を来場の皆さんに試飲してもらい、その薬効の説明をされる会場がありました。これは、以前からもあったのですが、私は初めてでした。そこに掲示されている説明文には、構造式も示されていて、とても興味深く見ることが出来ました。薬用植物園見学会は、2、3日目の両日にわたり4回行われ、漢方医学研究会の学生さんたちが説明を担当されました。夕方、私の研究室の卒業生が急に、大学祭の機会にと再就職の挨拶に来てくれました。それで、4時30分から

の大薬祭最後の男子学生の「薔薇祭」は後半しか見られなかったのですが、いずれのクラブのパフォーマンスも猛練習のあとがよく分かるもので、会場は大声援に包まれていました。

この3日間の来場者は、延べ6,326名に及びましたが、実行委員の皆さんが隅々まで良く組織されていたため怪我人は一人もなく無事終了することが出来ました。現代は、パソコンやスマートホンで、容易にバーチャルリアリズムの中に遊ぶことが出来、その弊害も取りざたされているのですが、本学学生は昔からの伝統的な手創りの大学祭を目指してくれていることは、学生たちの健全な精神を見る思いがします。これからも、先輩から後輩へ良き伝統が継承されることを深く望みます。最後に、大薬祭パンフレットには、多くの薬局などから協賛をいただきました。また、教職員の皆様にも多大な協力をいただき、学生部、学生課を代表して深く御礼を申し上げます。

3日目



どっちかな〇×クイズ



君の模擬店に乾杯



薔薇祭

第50回大薬祭

「Cheers! ~the 50th~」を終えて

大薬祭実行委員長 松本 奨太

第50回大薬祭は、節目の回に対応しい最高の大薬祭だったと断言します！それほど、ご来場いただいたすべての方が笑顔になった素晴らしい大薬祭でした。

大薬祭運営を終えて最も感じることは、134名の実行委員全員がエリートで恵まれていたということです。そして仲間の頼もしさを身に染みて感じました。私は実行委員長ですが、実際に大薬祭自体を運営するのは実行委員のみんなです。私だけのモチベーションが高くても、周りがついて来なければ私は単なる空回りになってしまいます。しかし、そんな不安は必要ありませんでした。私が次々に実行委員に指示を出しても、嫌な顔一つせずに完璧に仕事をこなしてくれ、さらに期待以上の仕事をしてくれました。また、実行委員の幹部は私が忘れていた仕事を、気づかぬところでいつの間にか助けていてくれたことが多くありました。その度に仲間の頼もしさを感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

大薬祭が開催されるまで多くの期待や不安を持っていましたが、当日お越しいただいたほとんどの方が笑顔であることを実際に見て確認し、初めて安心感が出てきました。約半年間動いた大薬祭準備が無駄ではなかったということを証明できるのは当日になってからです。当日になるまでは「第50回大薬祭を歴代で最高の大薬祭にしてみせる」という意気込みや「準備にやり残しがあるのではないか、天候に恵まれないのではないか、今年だけ来場される方が急激に減少するのでは

はないか」などの不安が頭から離れませんでした。ですが、大薬祭を無事に迎えることができ、部活やサークルの学生が充実しながら模擬店を運営している姿を見て、大薬祭は成功しているのだと安心することができました。

このように無事大薬祭を迎えることができたのは実行委員のみんなのおかげです。実行委員のみんなにはいくら感謝してもしきれません。夏休み明けの9月中旬から大薬祭までの毎週土曜日、大薬祭期間前後の約1週間はほとんどの時間を大薬祭の運営に費やしてくれ、当日は朝7時に集合して1日中働いてくれました。幹部の何人かは大学に泊まり込み、睡眠時間を削りながらも仕事に励んでいました。仲間の終わっていない仕事を自分を犠牲にしてまで手伝う姿を見て、今年の大薬祭は必ず成功すると確信しました。実行委員は実行委員でありながら、一学生です。Daiyaku Collectionや薔薇祭などを見たいという気持ちはひしひしと伝わりましたが、まずは大薬祭運営のことを優先してくれて熱心に働いてくれました。この場を借りて御礼を言わせていただきます。本当にありがとうございます！

大薬祭3日目にはフィナーレである薔薇祭の審査員をさせていただきました。普段の大学生活では見せないであろう一面を何百人もの人が見る大舞台で披露することは、表現できないほどの勇気が必要なはずですが、それでも羞恥心を振り切り精一杯踊る姿にとっても感動しました。ほとんどの出場者はダンスを経験したことがないはずですが、それを感じさせないほどの踊りを見ると、発表の背景には想像もできない程の努力や練習時間があるのだと感じ取れるほど素晴らしいものでした。また、学生課の卯滝明日菜さんとのフラッシュモブで観客の意表を突くことができ、私自身もとても充実した時間になりました。

大薬祭をきっかけに、100名を超える人との出会いがありました。大薬祭を終えて何気なく大学内を歩いていると、数多くの実行委員が笑顔で挨拶をしてくれるようになりました。素直にうれしく感じるとともに、重責である実行委員長を最後まで全うして良かったと毎回の挨拶で感じています。

私はこの数ヶ月という期間で仕事の仕方、リーダーの在り方、新しい仲間との出会いなど、数えきれないほどの人生の糧を手に入れることができました。

最後になりましたが、大薬祭開催にあたり地域の皆様、同窓会、育友会の皆様、企画や設営を手伝っていただいた業者の皆様、大阪薬科大学の職員の皆様、手厚くアドバイスやフォローをしていただいた先輩方に多大なるご支援、ご協力を賜りましたことをこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。



FD 活動の現状と課題

FD 委員長 教授 辻坊 裕

はじめに

FD (ファカルティ・ディベロップメント) は、主に個々の教員の授業内容・方法を改善するために、各大学、学部、学科等が組織的に行う研究・研修等の取り組みの総称であり、2007 (平成19) 年度の大学設置基準の改正を受けてすべての大学において義務化されています。本学もこれを受けて、2007 (平成19) 年度からFD委員会を設置し、教育活動の充実、および学習環境の整備のために努力を続けています。FD委員会は、現在「授業に対する学生アンケート」「公開授業 (ピア・レビュー)」「公開授業研究会」および「FD講演会」などの活動を行っています。今回、本学におけるFD活動の現状と課題について述べさせていただきます。

取り組みの内容・方法

1. 授業に対する学生アンケート

「授業に対する学生アンケート」は、授業改善を目的に原則すべての講義、実習、演習で実施されています。FD委員会では、現行のアンケートの取り方および集計結果についての問題点を抽出し、新たな「授業に対する学生アンケート」を作成しました。新たなアンケートは平成28年度より実施を予定しておりますので、概略をご紹介します。

授業を評価するための質問内容は、次の7つに分かれています。

- この授業を良い授業だと思えましたか。
- この授業は自ら進んで勉強しようと思わせるものでしたか。
- この授業内容は理解できましたか。
- この授業は興味が持てるものでしたか。
- この授業の教え方は良かったですか。
- あなたはこの授業の予習や復習を行いましたか。
- この授業はシラバスに沿って進められましたか。

さらに、b~eの回答について、その理由を答えるh~kの項目と、最後に授業に対する感想などを記載する箇所から構成されています。

集計結果については、教員にとって授業評価が一目でわかるレーダーチャートを導入し、従来のアンケートと比較し、分かりやすい集計結果になっています。これを以前にも増して活用していただき、学生にとってより良い授業を提供していただければと思います。

現在、授業に対する学生アンケートの全体的な結果は、本学のホームページに公表され、また、学生は科目ごとのアンケート結果とそれに対する授業担当教員の所見を教務課カウンターで閲覧することができます。アンケート結果については、本学の教職員および学生がパソコンやスマートフォンで情報をより簡便に入手できるようにしたいと考えています。

2. 公開授業 (ピア・レビュー)

公開授業 (ピア・レビュー) については、教員を有機・生薬系、物理・分析系、生物科学・衛生系、薬理・薬剤系、臨床系、および総合科学系に分け、前・後期にそれぞれの系から選ばれた教員の講義、実習、演習をFD委員を含む教員が参観し、評価するとともに、学生にも講義、実習、演習に関するアンケート調査をします。その後、授業参観教員による評価および学生アンケートに基づいて、授業担当教員、授業参観教員、およびFD委員によって「授業研究会」が開かれ、授業方法、授業内容などについて活発な意見交換を行い、担当者のみならず、参観した教員についても授業の改善に大いに役立っています。さらに、教員による「授業研究会」の後、さらに学生も参加可能な「公開授業研究会」が開催されます。

3. FD講演会

FD活動の推進・活性化および教育改革を目的に、教育手法や評価法に造詣が深い講師をお招きし、教職員を対象にFD講演会を開催しています。その際にアンケート調査を行い、FD講演会の更なる改善に役立っています。本年度は学習評価の新たな潮流としての「ルーブリック評価」についての講演会を予定しております。

本学における学習評価は、主に試験やレポートで実施されていますが、SGDやPBLなどのアクティブラーニングにおける評価法についても積極的に取り入れ、それを活用する必要があると思います。社会においては主体的に「学ぶ」人材の養成が求められています。

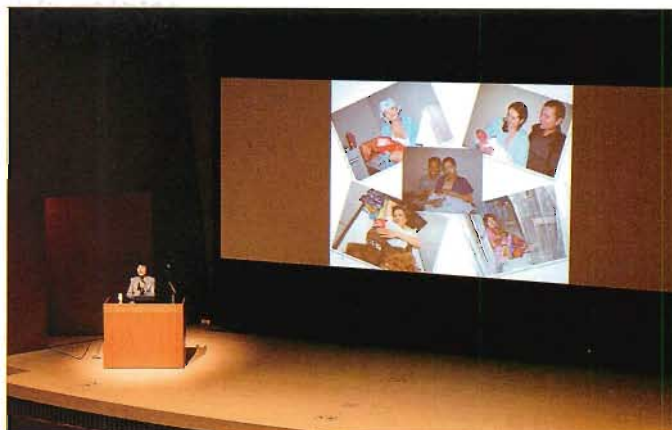
本学のカリキュラムにはSGDやPBLなどのアクティブラーニングを用いた授業が少なく、今後積極的にアクティブラーニングを授業に取り入れるとともに、新たな評価法により学習到達度を評価することが必要であると思われます。

今後の課題

平成25年度に薬学教育モデル・コアカリキュラムが改訂されました。改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムでは、卒業時までには修得されるべき「薬剤師として求められる基本的な資質」を前提とした学習成果基盤型教育 (outcome-based education) に重点を置いています。これは学生が単に「何を学んだか」ではなく、学んだことを統合して「何ができるようになったのか」を卒業時に評価する必要があります。すなわち、6年卒業時に必要とされる【薬剤師としての心構え】【患者・生活者本位の視点】【コミュニケーション能力】【チーム医療への参画】【基礎的な科学力】【薬物療法における実践的能力】【地域保健・医療における実践的能力】【研究能力】【自己研鑽】【教育能力】の資質をどのような方法を用いてどのように評価するのかを議論する時期にきていると思います。先に述べましたルーブリック評価表に基づいて、これらのパフォーマンスを評価することも一つの方法かもしれませんが、今後とも教員、職員、学生の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

人権講演会を開催しました

人権委員長 教授 福永 理己郎



平成27年10月15日(木)の午後に、1年次生と本学職員を対象とした人権講演会を開催しました。本年度は「女性の人権」をテーマに取り上げ、DVD作品の上映と、外部講師によるご講演を企画しました。

DVD上映では、昨年と同じく「家庭の中の人権：生まれ来る子へ」(東映教育映像部2013年、約25分)を鑑賞しました。「女性の人権」というテーマに関連して、①妊婦に対する世間や社会の対応、②育児への父親参加の現状、③親の介護をするのは誰?などの問題が扱われていました。「産む」性である女性を取り巻く身近な人間関係の中に“誰もが楽しく幸せに生きる権利”を侵害する場面が存在し得ることを気付かせる内容でした。

続いて、「あなたはどんな出産をしたいですか～出産と女性の人権～」というタイトルで、奈良女子大学生活環境学部教授 松岡悦子先生によるご講演を頂きました。松岡先生は「リプロダクションとジェンダー」の文化人類学をご専門に、世界各地の出産にまつわる状況を研究しておられます。ご講演では、まず、今日の日本では「出産は苦しいものである」という負のイメージが固定化されて出産の医療化が当然視されている現状をお話しされ、元来は家庭や地域の行事あるいは通過儀礼であったことなど、出産を様々な視点から捉える考え方を示されました。次いで、ハンガリーで自国の出産医療に疑問を抱いて自宅分娩を推進していた産科医が逮捕された事例(アグネス・ゲレ

ブ事件)を紹介され、現代の医療体制による支配構造の熾烈さを提示されました。一方、英国では出産に対する医療の過剰介入を減らし、正常出産の場合は自宅で分娩することを促す方向で出産政策の転換が進められているという話題も提供されました。翻って日本では、自宅分娩は危険とみなす考え方が支配的であり、自宅で産みたいと思っても、その希望を叶える体制に乏しい現状をお話されました。出産に対する過剰な医療を減らし、産む人を中心に据えた出産をサポートすることが、女性の人権に配慮した社会の実現へ向けた一歩となることを訴えられました。

受講者は1年次生であり、自分(あるいは相手)の出産はずいぶん先のことと感じる学生が多かったようですが、「女性の人権と出産」について熱心に耳を傾け、女子学生にとっては「自分が出産する時はどうでしょうか?」、男子学生は「自分はどう関わるだろうか?」と自問する機会になったことが、講演後のアンケートから伺われました。また、善意の薬剤師とならずの自分も「医療権力」の一部に組み込まれることを意識する契機となったのではないかと思います。

松岡先生の著書や講演会で上映したDVDは図書館の「人権関係図書コーナー」に置いてあり、また、松岡先生のご講演内容は平成28年3月発行予定の「大阪薬科大学紀要 vol.10」に掲載される予定です。今回の講演会を機会に、人権問題に対する理解が深まればと願います。

平成27年度公開教育講座およびサテライトセミナーを終えて

公開教育講座委員長 教授 島本 史夫

大阪薬科大学の公開教育講座は「薬剤師の生涯教育」の場として、1983年以来33年間にわたり毎年開催してきました。薬剤師は薬物の専門家として、人の命を扱う医療人として、次々に登場する新薬や新しい医療技術など日進月歩の医療に対応できるために新しい知識の継続的な習得が求められ、生涯学習が必須です。近年の薬事法改正なども加わり薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しています。今後さらに拡充する在宅医療などでは、薬物治療に対する「安全性の確保」に薬剤師の責任がさらに大きくなってきます。本学では、このような変化に対応できる薬剤師を養成するための講座を年3回行っています。

本年度第1回目（第69回）公開教育講座は5月23日（土）に梅田スカイビル タワーウエスト36階で開催されました。第1講は島本史夫（本学薬物治療学Ⅱ研究室教授）による「歴史・文化史からみた薬と医療の歩み」で、日常業務から少し離れて、人と薬、病気と薬との関わりを古代メソポタミア・エジプト・ギリシャ文明から中世ヨーロッパ社会を経て近代・現代までどのように受け継がれてきたのか振り返り、医療と薬について改めて考えるテーマでした。第2講は政田幹夫本学学長による「医療現場において薬学・薬剤師の果たすべき役割」というテーマで、医薬品の適正使用、薬剤師に必要な能力、医薬品情報の基本、チーム医療を行うために必要なこと、今後の薬学教育にさらに必要なものなどについて幅広い分野からの講演でした。従来の医・薬学専門領域から少し離れたテーマでしたが、薬剤師としての基本的な知識や姿勢に有用な内容でした。

第2回目（第70回）公開教育講座は7月18日（土）に開催され、我が国の有病者数710万人で世界ランキン

グ10位となり急速に増加している「糖尿病」を取り上げました。第1講は田中逸教授（聖マリアンナ医科大学代謝・内分泌内科）による「肥満を伴う2型糖尿病患者に対する治療戦略」というテーマで、血糖値改善に加えて、体脂肪を減少させるにはどのような食事の取り方が効果的なのか、インスリン分泌機序からの説明とともに、分かりやすい食べ方のアドバイスを具体的に解説され、薬剤師としての服薬指導に直接役立つ内容でした。第2講は矢作直也准教授（筑波大学内分泌代謝・糖尿病内科）による「『検体測定室』とは～生活習慣病早期発見のための新たなリソース～」で、糖尿病の早期発見につながる自己血糖測定（SMBG）を薬局－医療機関間の地域医療連携として行う「糖尿病診断アクセス革命」プロジェクトについて解説していただきました。2014年の法律改正により薬局を中心に検体測定室が開設され、今後ますます「糖尿病早期発見」に対する薬剤師の役割が期待されるなか、タイムリーな内容でした。

第3回目（第71回）公開教育講座は11月21日（土）に開催されました。第1講は金啓二先生（神戸朝日病院薬剤部長・院長補佐）に「C型肝炎の最新治療」について講演していただきました。肝硬変から肝細胞癌へと進んでいくC型肝炎ですが、次々と登場する新薬により「ほぼ治る」病気になってきました。早期発見から最新の治療薬の開発状況まで紹介いただきました。第2講は金守良先生（神戸朝日病院院長）から「NASH/NAFLD」というテーマで、生活習慣病と密接に関係する脂肪肝について、肝硬変や肝細胞癌との関係や最新治療についてお話していただきました。これからも次々登場するC型肝炎治療薬の現状や脂肪肝予防のため生活改善指導の重要性など薬剤師にとっても貴重な情報でした。

公開教育講座での座学形式による多人数を対象とした講演では十分カバーできない面があり、松村人志前委員長の発案、井尻好雄准教授、宮崎誠准教授、加藤隆児講師の企画・運営で、新たな試みと



公開教育講座 講演



公開教育講座 質疑応答

して講義と演習・実習で構成された少人数制のサテライトセミナーを昨年度から始めました。薬剤師がこれからの業務で欠くことのできない問題解決（臨床推論）能力を養うこと、「処方箋を見る（＝処方の確認⇒医師の指示通りの調剤?）」から「処方箋を読む（＝処方の解析⇒薬物治療に関する提言!）」能力を養うことを目指しています。

今年度は1回完結形式で「薬物の重篤副作用の予測・予防」を主テーマに3回行いました。日曜日の午前10時から午後5時までのハードスケジュールでしたが、受講者総数45名で、病院薬剤師と薬局薬剤師はほぼ同数、勤務経験1年～10年以上と幅広い層からの参加がありました。今年度は本学教員、大学院生、学部学生および今年の本学卒業生の参加があったのが特徴的でした。第1回目（9月6日）は「糖尿病治療薬の重篤副作用（低血糖とQT延長）」をテーマとして、第70回公開教育講座の講演内容である「薬局で血糖を測ろう」を実践すべく、自己血糖測定（SMBG）やバイタルチェック（脈拍）などの小実習を取り入れました。寸暇を惜しんで昼食を食べながらのランチョンミーティングを行いながら、食前、食中、食直後、食後2時間での各人血糖・脈拍を測定し、食事時間と血糖・脈拍変動との相関を実体験してもらいました。その後で、なぜ糖尿病薬は食前に投与しなくてはいけないのか？食前・直前、食中・後に服薬するとどうなるのか？など、実体験測定値を基にスモールグループ討論が行われ、受講者の満足度も極めて高い企画でした。「大阪でも薬局でバイタルチェックや検査ができるようにがんばりましょう！」を合い言葉に無事終了しました。

第2回目（10月18日）は、「アレルギー性の重篤副作用（薬剤性肝障害、スティーブンス・ジョンソン症候群など）」をテーマとして取り上げました。薬剤師がバイタルチェックをするのは重篤副作用の初期症状を見つけるためです。副作用が実際に出現した場合どうするか、薬剤師としての対処法を学び、バイタルチェックで初期症状を見つけて重篤副作用を未然に防げるかについて討論しました。「予測・予防の医療」を実践するために、コンパニオン診断や発症前診断など

副作用発現を早期に予想する最先端の考えを紹介しながら進行しました。「非常に難しい内容であった」が「大変勉強になった」という感想が多かったセミナーでした。

第3回目（11月15日）は、「呼吸器系の重篤副作用（間質性肺炎、肺線維症など）」をテーマとして取り上げました。バイタルチェック（脈拍、呼吸数）、パルスオキシメーターによる酸素飽和度測定、聴診器による呼吸音聴診、スパイロメーターによる肺活量・1秒率測定など、日常業務では扱わない検査機材を用いる実習に、受講者とスタッフ入り乱れて夢中になり取り組んでいました。

本セミナーは1回十数名（1グループ数名）の少人数で行われ、公開教育講座の講演内容を発展させる形で講義、事例に基づく演習、日常業務に役立つ実習などで構成され、昼食も実習課題に組み込まれるという徹底した企画内容でした。数名の小グループでの討論、グループごとの発表と全体討論など、気を抜けない緊張の連続の中に楽しい歓談を交える場もあり、有意義な時間だったと思います。終了後のアンケートでは参加者の83%の方が次回もぜひ参加したいと回答し、充実した企画・運営が評価されたものと自負しています。これも、運営委員、協力研究室の先生方、附属薬局薬剤師の皆様、臨床教育・研究支援課の皆様の幅広いご支援のおかげと感謝しています。

学生諸君は6年間の薬学勉強を終えて国家試験に合格しても、「薬剤師」であるかぎりには「山の向こうに山有り、山また山」というように、一生続く「学習」が待っています。薬物の専門家である薬剤師として、人の命を扱う医療人として、幅広い分野での「生涯学習」が必要です。本講座・セミナーは薬剤師の能力向上を目指していますので、卒業後も本学卒業生の情報交換の場として「ミニ同窓会」を兼ねて参加してください。学部学生（特に5年次生）にとっても有用と思われるので学生諸君の積極的な参加も期待しています。



サテライトセミナー 小グループ討論



サテライトセミナー 討論内容発表

大阪薬科大学の社会貢献活動 —平成27年度 市民講座委員会からの報告—

市民講座委員長 教授 松村 人志

平成27年度は、第39回と第40回の市民講座を開催いたしました。

まず、【第39回市民講座：5月30日(土)13時～16時10分】では、テーマを「健康な生活習慣」とし、第1講演では武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 准教授の鞍田三貴先生に「賢い食事で健康寿命をのばそう」との演題でお話をいただきました。また第2講演では神奈川工科大学 創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 教授の高橋勝美先生に「自立した健康・幸福生活のための運動実践のすすめ」との演題でお話しいただきました。この第39回につきましては、前回の学報 (No.71) にて既にご報告致しております。

そして【第40回市民講座：10月24日(土)13時～16時10分】におきましては、テーマを「医療と薬」とし、第1講演を医療ジャーナリストで京都薬科大学客員教授の北澤京子先生に「インターネット時代の患者学」との演題でお話しいただきました。自分や身内にとって必要な、そして信頼できる医療情報を、どうすれば

インターネットで収集できるかのコツを教えてくださいました。なお北澤先生は、「患者のための医療情報収集ガイド」(ちくま新書 2009) という御著書を上梓しております。

続いて、本学学長の政田幹夫先生から「薬(くすり)と薬剤師(くすし)～体の中での薬の動きと薬剤師の役割～」と題してご講演いただきました。歴史的にどのような経緯で医薬分業が始まったのか、医薬分業の意義、薬剤師の役割等について、さらに続けて服用時のちょっとした条件の違いによって薬物の血中濃度が時に大きく変化することがあり得ることを、具体的データを示しながら解説しつつ、薬剤師による服薬指導の重要性を説かれました。

その後に第3講演：対談「これからの医療と薬」として、お二人の先生方に御登壇いただき、参加者の皆さまから上記講演中にご記入いただいた質問票を用いて、北澤先生から政田先生にいろいろ質問や話題を投げかけていただき、お二人で対談をお願い致しまし



第40回市民講座 北澤先生の講演



第40回市民講座 政田先生と北澤先生の対談

た。最後には、参加者の皆さま方にも直接お二人に質問や意見を投げかけていただき、会場全体で議論致しました。

なお、この第40回市民講座の参加者数は市民の方200名、本学学生4名、計204名でした。また、毎回同時に開催しております「くすりの相談室」のご利用者は24名でした。もちろん、「薬用植物園の見学」や「図書館、資料展示室の特別公開」もいつも通り開催致しました。

市民講座以外にも、「大阪中学生サマー・セミナー」、「高槻市夏休み子ども大学」、「けやきの森市民大学」を開催致しました。「大阪中学生サマー・セミナー」は8月7日(金)9時～12時30分に本学のD棟にて「薬剤師の仕事を体験してみよう」との講座名で、調剤に関する手技や機器の操作、患者への対応方法を中心に実習を行い、19名の中学生が参加致しました。ご両親やご家族の方々が大勢見学しておられる中、中学生の皆さんは大変熱心に取り組んでおられました。「高槻市夏休み子ども大学」は8月8日(土)9時～12時にやはり本学のD棟で行い、「薬剤師さんに

変身！ー子ども薬剤師体験ー」との講座名で、内容は上記中学生対象のものをアレンジして少し簡単に行いました。18名の小学生の皆さんが、ご両親・ご家族の熱い視線の下、一生懸命に取り組んでおられました。これらの企画には、定員20名のところ、驚く程大勢の応募があり、抽選で参加者を決定致しました。いずれも、銭田晃一准教授(特任)が中心となり、戸塚裕一教授、荒川行生教授、金美恵子教授(特任)、加藤隆児講師により企画実行され、本学学生4名にお手伝いただきました。

「けやきの森市民大学」は、高槻市の市内大学社会連携セミナーとのことで、高槻市立生涯学習センターにて、8月29日(土)15時～16時に行われました。本学の薬物治療学Ⅱ研究室教授で、内科医でもある島本史夫先生が、「健やかな人生は健やかな胃から～生活習慣病と胃の病気～」と題して講演されました。高槻市民の皆さま114名が参加され、分かりやすく興味が持てたと大変好評であったとの報告を受けております。

さて、来年度(平成28年度)は、まずは5月21日(土)に市民講座を予定しております(テーマは現在検討中)。地域の皆さま方との相互交流・相互理解を深めかつ広げながら、本学の一層の発展に寄与したいと考えております。

三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（その9）

准教授（特任） 銭田 晃一

三大学医工薬連環科学教育研究機構は平成21年度に文部科学省の「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に採択され、3年間の財政支援を受けて発足し現在も継続して『「医工薬連環科学」教育システムの構築と社会還元～分子から社会までの人間理解～』に関する共同事業の実施に取り組んでいます。その活動内容は本誌において連載してきましたが個別の内容紹介が多かったことと、取り組み開始後6年が経過したこともありますので、本機構について今一度皆さんにご理解頂けるよう、今回は少し全体的なお話をしようと思います。

まず“三大学”ですが、関西大学が代表校、大阪医科大学と本学は連携校になって構成されています。関西大学は吹田市の千里山キャンパスにシステム理工学部や化学生命工学部など工学系の学部がありますが、高槻市内にも2つのキャンパスがあります。つまり、本学を含めこの三大学はすべて高槻市とかかわりが深い大学と言えます。機構の取り組みには「教育課程の構築」、「教育支援システムの構築と教育環境の整備」、「地域への社会還元」があり、高槻市、高槻市教育委員会、高槻商工会議所の協力も頂きながら行っています。



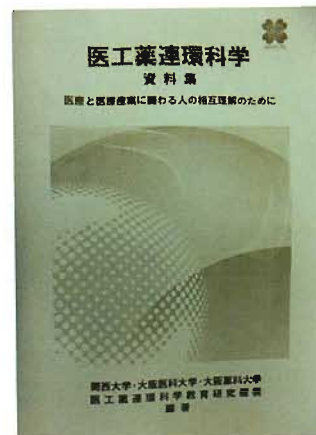
教育支援ネットワーク概念図

皆さんに直接関係する教育の面では「遠隔講義（TV会議）システムを用いた双方向遠隔講義」が実施されています。本学の開講科目として2年次に配置されている「医工薬連環科学」は平成23年度の前期に開設されました。この科目は前期月曜5限が三大学の共通講義科目になっており、大阪医科大学、本学、関西大学がオムニバス形式で担当しています。専門分野

が異なる受講生の理解を助けるため平成26年度からは冊子として資料集をとりまとめ、各大学の受講生に無料で配布しています。さらに平成27年度は講義を担当頂く先生とその内容の一部変更を受け、改訂を行いました。また、平成21年度から26

年度まで大阪医科大学から配信を受けていた「医学概論」は大阪医科大学のカリキュラム改定により、平成27年度は「生命誌」と「医学概論」に分かれました。「生命誌」は受講登録に人数制限がありますが、引き続き後期月曜4限に配信されることになりました。履修にあたっては指定された期間に講義に協力頂いているJT生命誌研究館を訪問して施設を見学し、受け取ったレポート課題を提出することが必要です。なお、「医学概論」は残念ながら大阪医科大学の学生のみの対象科目になりました。リアルタイムで実施する双方向講義では各大学のカリキュラムや時間割により制約を受けるため、本学で受信できる他大学の科目は先ほどの「生命誌」と後期金曜5限関西大学システム理工学部の「福祉工学概論」になっています。「福祉工学概論」は薬剤師にとっても必要な高齢者や障がい者理解の視点が学べることもあってか、平成27年度は本学の1年次生100名が受講しています。本学からは関西大学に向けて前期は「医工薬連環科学」の他に「生薬学2」、「応用放射化学」を、後期は「生薬学」、「機能形態学1」を配信しています。また、本学の配信科目については実習や施設見学も行ってきました。前期の「応用放射化学」では関西大学および皆さんを対象とする希望者十数名が大阪府立大学中百舌鳥キャンパスにある「地域連携研究機構・放射線研究センター」を訪問し、コバルト60ガンマ線照射施設を見学しています。「生薬学」や「機能形態学1」も平成23年度から関西大学の受講生向けに本学においての実習を企画しています。

次に「地域への社会還元」に関する取り組みについて紹介します。現在も継続して行っているものと、一





大阪府立大学 地域連携研究機構・放射線研究センター見学

定の成果をあげて終了したものがああります。まず継続しているのは「小学校への出張講義」で、これは代表校の関西大学の先生方が高槻市内の小学校に出向いて筋肉の動き、超音波、顕微鏡観察などの理科実験を含めた授業を行っています。また「自由研究コンテスト」は、高槻市内の小・中学校に通う児童・生徒を対象に小学校低学年は絵と作文、小学校高学年と中学生は理科実験、観察、調査記録に関する成果、記録を応募頂き、提出頂いた書類による一次審査の通過者が二次審査会で発表した中から優秀な作品に対して表彰を行っています。また、子どもから高齢者まで幅広く参加頂けるのが「高槻家族講座」です。平成26年度は大阪医科大学が担当し、JT生命誌研究館で開催しましたが、初回の平成21年度から今年度も本学において高槻に縁の深い企業のご協力を頂き、食をテーマに講演と子ども体験を実施しています。また、「三大学医工薬連環科学シンポジウム」は教員、学生から一般の方までを対象に第一線の研究者に講演を頂いています。本シンポジウムは三大学が輪番で行っていて昨年度は第10回を本学で、今年度は大阪医科大学で開催が予定されています。一方、思い出に残る企画となってしまったものに「JSTサマー・サイエンスキャンプ」があります。これは(独)科学技術振興機構(JST)が主催する全国の高校生を対象とした先進的科学技术体験合宿プログラムで、三大学は「くすりを『知る』・『創る』・『活かす』」というタイトルで平成22年度は2泊3日、翌23年度から3泊4日型のDX(deepen & extend)で本学、関西大学、大阪医科大学を会場として講義、観察、実験から発表に至るプログラムを提供してきました。JSTのすべてのサイエンスキャンプ事業の打ち切りに伴い、20名の募集に対して10倍以上、230名あまりの最多数の応募があった平成26年度が最終となってしまいました。好奇心に満ちた高校生たちが始めて出会った仲間と共に、一生懸命になってプロ

グラムに取り組む姿勢に指導にあたった教職員やTA一同、感動しました。



最後となったJSTサマー・サイエンスキャンプ2014 (本学薬用植物園にて)

また、機構はその取り組みを広く知って頂くために、パンフレットやニュースレターを毎年発行しています。今回紹介させて頂いた機構の概要、取り組み事業、行事予定、活動報告や刊行物等は機構WEBサイト(<http://www.kansai-u.ac.jp/mpes-3U>)にも詳しく掲載されていますので、是非ご覧ください。



最後になりますが、今後も皆さんには専門分野に限ることなく幅広く興味を持って頂けるよう努めて参りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。

快適睡眠生活のすすめ

学生相談室相談員 西田 裕子

2015年も残すところわずかとなりました。今年は秋が長く、過ごしやすい期間が長かったですが、やはり冬もやってきました。寒くなるとどうしても朝布団から出るのが難しくなりますが、皆さんは快適な睡眠生活をされていますか？

睡眠は人間の一日の三分の一を占める重要事項です。特にぐっすり眠ることは疲れた筋肉を修復したり、体の維持向上に役立ったり、自律神経にも良い影響を及ぼします。しかし寝ようと思って横になると、何か不安なことがあると、色々なことが頭をよぎりなかなか眠りにつけません。みなさんも一度はこうした経験があるのではないのでしょうか。これは、脳の交感神経が活発に働き興奮しているためです。ぐっすり眠れない、寝たのに寝た気がしないという場合には大きく三つのパターンが隠れています。なかなか寝つけないという入眠困難、途中で何度も目が覚めるという中途覚醒、目覚ましよりも早く目が覚めてそこから眠れないという早朝覚醒の三つです。眠れないと思ったら、健康管理支援室で相談されたり、病院を受診されたりすることが重要になりますが、今日は皆さんに生活の中でできる工夫を紹介したいと思います。

不眠の原因に悩みやストレスといった心理的要素が関連している場合があります。こうした不眠は通常二週間以内に消失しますが、長引かせないためには早めに悩みを相談されることをお勧めします。家族や友人に相談されたり、学生相談室に来られたりするのも歓迎します。

また生活習慣が影響している場合もあります。睡眠に影響する生活習慣の一つにスマホがあります。最近ではテレビやパソコンだけでなくスマホを使って布団に入ってからネット検索や友達とのやりとりを続けている方も多いのではないのでしょうか。この習慣はメラトニンという入眠を促すホルモンの分泌を阻害し、眠りにくくしてしまいます。不眠の症状がでるようであれば、布団に入る一時間前にはスマホの使用は控えてみるようにしましょう。その他にも、規則正しく生活する、運動の習慣をつける、ぬるめの湯船にゆっくりつかる、就寝前のカフェインは控えるなどの生活習慣は睡眠の質の向上に関係すると言われています。

次は眠れなくなった時の対処方法です。よくあるのが、寝ようとするものの寝つけず、寝ようと心の中で努力してしまうことです。これはかえって頭を冴えさせてしまい、寝つきを悪くしてしまいます。こういう場合にはあまり就床時間にこだわり過ぎず、眠たくなってから床に入ることが大切です。早く寝ようと就寝時間を調整するよりは、眠たくても毎朝ほぼ同じ時間に起き、起床時間から調整することが重要と言われています。またアロマオイルを焚く、心地のいい音楽を聞く、軽めのストレッチをするなどの就寝前の自分なりのリラックス方法は良い眠りへの準備となります。こうした習慣は交感神経の働きを抑えて、副交感神経を優位にすることで心身ともにリラックスでき、快適な睡眠に近づくことを促します。よく言われている寝酒は寝つきを良くするかもしれませんが、睡眠を浅くしてしまうので質の良い睡眠には逆効果です。

最後に、いつもと違う眠りの場合は注意が必要です。激しいびびきや呼吸停止を家族や友人に指摘される場合は一度専門医を受診してみましよう。睡眠の質そのものは他の人との比較が難しく、質が悪くても気づかないことも多いかもしれません。就寝前のリラクスタイムを持つてみることで、自分の睡眠の質に気づくことができるかもしれません。年末年始を控え、睡眠のリズムは乱れやすくなりますが、皆さんは年明けにはいよいよ後期の定期試験が迫っています。是非、自分なりの工夫をしていただき、快適睡眠生活を送っていただき、試験に無事合格されることを祈っています。

参考文献：巽あさみ「最近スッキリ眠れていますか？」

参考：巽あさみ「最近スッキリ眠れていますか？」

参考文献：巽あさみ「最近スッキリ眠れていますか？」

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に3回、カウンセラー（臨床心理士）が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。（平成27年9月～平成28年3月の火曜日は、川端康雄相談員が担当します）



川端康雄相談員 若林暁子相談員 小田佳子相談員 西田裕子相談員
（火曜日担当）（火曜日担当）（木曜日担当）（金曜日担当）

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00
毎週金曜日 14:00～18:00

TEL：(072)690-1077(直通) E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

《場所》A棟1階



総務課

■人事

名誉教授（平成27年4月1日付）

森下 利明
岡 源郎
草野源次郎
赤木 昌夫
濱中久美子
千熊 正彦
田中 一彦
藤田 芳一

退職（平成27年7月31日付）

助手（嘱託） 佐藤 秀行

退職（平成27年8月31日付）

臨床教育・研究支援課課長補佐
澤田あつ子

退職（平成27年9月16日付）

講師 大石 宏文

退職（平成27年12月3日付）

教授 高岡 昌徳

委嘱を解く（平成27年7月31日付）

客員研究員 村上 能庸

委嘱（平成27年8月1日付）

客員講師 村上 能庸

委嘱（平成27年9月1日付）

学生相談員 川端 康雄（非常勤）

委嘱（平成27年12月9日付）

安全衛生委員会委員 大桃 善朗（准教授）

安全衛生委員会委員 宮本 勝城（准教授）

安全衛生委員会委員 藤原 昭男

（建築物環境衛生管理技術者）

招へい教授（平成27年10月1日付）

松浦 成昭

招へい教授（平成27年11月1日付）

芹川 忠夫

客員研究員（平成27年7月1日付）

藤田 芳一

森 龍彦

吉本 寛司

客員研究員（平成27年11月1日付）

芹川 忠夫

森本 茂文

■慶弔

訃報

岡 源郎 元学長（平成27年7月3日逝去）

高岡 昌徳 教授（平成27年12月3日逝去）

叙位

岡 源郎（元学長）

正四位（平成27年7月3日付）

叙勲

栗原 拓史（元学長）

瑞宝中綬章（平成27年11月3日付）

表彰

馬場 きみ江（名誉教授）

西野 隆雄（元准教授）

大阪府薬事関係等功労者（平成27年10月29日付）

■海外出張

林 哲也 教授 (循環病態治療学研究室)

出張期間：平成27年8月29日～9月3日

ESC Congress 2015 (イギリス)

松村 靖夫 教授 (病態分子薬理学研究室)

出張期間：平成27年9月1日～9月7日

14th International Conference on Endothelin (アメリカ)

田中 亮輔 助手 (病態分子薬理学研究室)

出張期間：平成27年9月1日～9月7日

14th International Conference on Endothelin (アメリカ)

平田 佳之 助手 (生薬科学研究室)

出張期間：平成27年9月13日～9月20日

Frontiers in Medicinal Chemistry 2015 (ベルギー)

加藤 隆児 講師 (循環病態治療学研究室)

出張期間：平成27年10月10日～10月16日

14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (オランダ)

岩永 一範 准教授 (薬剤学研究室)

出張期間：平成27年10月24日～10月31日

2015 AAPS Annual Meeting and Exposition (アメリカ)

戸塚 裕一 教授 (製剤設計学研究室)

出張期間：平成27年10月26日～11月2日

Food Structures, Digestion and Health (ニュージーランド)

門田 和紀 講師 (製剤設計学研究室)

出張期間：平成27年10月26日～11月2日

Food Structures, Digestion and Health (ニュージーランド)

林 哲也 教授 (循環病態治療学研究室)

出張期間：平成27年11月6日～11月11日

AHA Scientific Sessions 2015 (アメリカ)

恩田 光子 准教授 (臨床実践薬学研究室)

出張期間：平成27年11月7日～11月12日

ISPOR:International Society for

Pharmacoeconomics and Outcomes Research (イタリア)

大野 行弘 教授 (薬品作用解析学研究室)

出張期間：平成27年11月18日～11月23日

WPA International Congress 2015 (台湾)

清水 佐紀 助手 (薬品作用解析学研究室)

出張期間：平成27年11月18日～11月23日

WPA International Congress 2015 (台湾)

田中 早織 助手 (薬物治療学研究室)

出張期間：平成27年11月21日～11月26日

8th Federation of The Asian and Oceanian Physiological Societies (タイ)

小池 敦資 助手 (生体防御学研究室)

出張期間：平成27年12月12日～12月17日

ASCB 2015 Meeting (アメリカ)

春沢 信哉 教授 (有機薬化学研究室)

出張期間：平成27年12月16日～12月23日

Pacific Basin Societies 2015 (アメリカ)

■受賞

- ・東剛志助手が公益財団法人河川財団平成26年度助成事業において優秀成果賞を受賞しました。
- ・門田和紀講師が粉体工学会第22回粉体研究奨励賞を受賞しました。
- ・宇佐美吉英准教授が有機合成化学協会関西支部「第13回関西支部賞」を受賞しました。

研究助成採択一覧

研究助成機関	採 択 者	採択テーマ
公益財団法人住友財団 2015年度環境研究助成	東 剛志助手 (薬品分析化学研究室)	病院排水に適応可能な高度排水処理システムの開発

■防災訓練を実施しました

平成27年9月15日(火)に高槻市北消防署員立会の下、平成27年度防災訓練を実施しました。

12時8分にC棟3階の実習室より地震に伴う火災が発生したとの想定で開始され、学生および教員参加



による消火・通報連絡・避難誘導・警備・救護の各訓練を実施しました。

全ての訓練終了後、避難集合同所において、同署員から注意喚起を含めた講評をいただきました。続いて、訓練用消火器を用いて消火活動の実演が行われました。



■大阪薬科大学名誉教授称号授与式を執り行いました

岡源郎元学長、千熊正彦元学長、藤田芳一前学長、森下利明元教授、草野源次郎元教授、赤木昌夫元教

授、濱中久美子元教授、田中一彦元教授の8名に対して大阪薬科大学名誉教授の称号を授与(平成27年4月1日付)することが決定し、平成27年7月23日(木)に授与式を執り行いました。

■高槻市「食育フェア2015」に出展しました

平成27年9月6日(日)高槻現代劇場において「高槻市食育フェア」が開催され、本学からもブースを設けて参加しました。

高槻市健康づくり推進協議会の企画である「健康

フェア」と同時開催ということもあり、雨天にもかかわらず、多数の来場者がありました。本学はクイズラリーに出題参加していたので、その解説等に忙しく、また、高槻市長や、高槻市のマスコットキャラクター「はにたん」も見学にきて盛況でした。

■職場体験学習の中学生を受け入れました

地域連携教育の一環として、毎年高槻市立阿武山中学校から職場体験学習の生徒を受け入れています。本年は10月29日(木)、30日(金)の2日間、2年生の女子生徒2名が、図書・情報課で図書館業務を体験しました。受付カウンター前に自作のポスターを掲示し、手

作りの飾りを設置していただき、この2日間の図書館は、心とむ霧困気となりました。生徒達にとって、この2日間が心に残る人生経験となってくれていることを期待します。



■附属薬局健康講座を開催しました

平成20年9月から始めた「患者様向け健康講座」は、本年10月に第20回目を開催することができました。

◆「第20回患者様向け健康講座」

日時：平成27年10月17日(土) 13時30分

演題：「見直してみよう、糖尿病治療」

講師：北摂総合病院

糖尿病内科医長 竹内 徹 先生

「患者様向け健康講座」は、附属薬局の研修室を利用して始めた取組です。第1回からの開催記録一覧を添付し、あらためて講師の諸先生並びに関係各位に感謝申し上げます。

最近では、高槻市薬剤師会を通じ、高槻市の委託事業である地域健康リーダー養成研修や患者友の会、グループホームへのアウトリーチ(出前講座)の機会も増えてきました。

患者様向け健康講座開催状況

回	開催日	演 題	講 師	受講者数
第1回	平成20年9月20日	「効果的な漢方薬」～体質に合わせた使い方～	中瀬 祥緒 先生 国際中医専門員(元)枚方市薬剤師会長	35人
第2回	平成21年1月17日	「お医者さんとの上手な付き合い方」	人見 滋樹 先生 (前)高槻赤十字病院長	70人
第3回	平成21年5月30日	「生活習慣病」～糖尿病のお話～	田中 孝夫 先生 本学教授	30人
第4回	平成21年10月3日	「生活習慣病」～高血圧症のお話～	人見 滋樹 先生 (前)高槻赤十字病院長	50人
第5回	平成22年1月30日	「認知症」～病気への理解と支え方～	税所 幸子 先生 大阪市認知症専門相談員	80人
第6回	平成22年5月29日	「不眠症」～お年寄りの不眠と対処～	熊ノ郷卓之 先生 大阪大学医学部附属病院睡眠医療センター	65人
第7回	平成22年10月16日	「認知症の知識と予防」	森本 一成 先生 新阿武山病院大阪府認知症疾患医療センター	70人
第8回	平成23年2月19日	「中高年のうつ病予防について」	正木 慶大 先生 東加古川病院副院長	60人
第9回	平成23年6月4日	「排尿の悩み」～下部尿路症状の診断と治療～	高尾 徹也 先生 大阪大学医学部附属病院泌尿器科	60人
第10回	平成23年10月1日	「生活習慣と骨粗鬆症」	今西 康雄 先生 大阪市立大学医学部附属病院骨リウマチ内科	60人
第11回	平成24年2月18日	「加齢に伴う目の病気」～白内障・加齢黄斑変性～	坂口 裕和 先生 大阪大学医学部附属病院眼科	60人
第12回	平成24年9月29日	「逆流性食道炎」ご存知ですか？	齋藤 澄夫 先生 大阪赤十字病院 消化器科	40人
第13回	平成24年12月1日	「その息切れ、年のせいじゃないかも？」～COPDについて～	北 英夫 先生 高槻赤十字病院 呼吸器科部長	30人
第14回	平成25年2月2日	「そのしこり、大丈夫???」～乳癌の疫学・診断・治療について～	下村 淳 先生 大阪大学外科学講座 乳腺・内分泌外科	30人
第15回	平成25年7月20日	「膝の痛みの最新治療」～地域連携から人工関節手術まで～	平中 崇文 先生 高槻病院 整形外科部長・関節センター長	40人
第16回	平成25年11月30日	「大腸がん化学療法 最近の動向」	工藤 敏啓 先生 大阪大学消化器癌先進化学療法開発学講座	30人
第17回	平成26年3月1日	「うつ病の診断と治療」	岸田 学 先生 東大阪市立総合病院 精神科首席部長	20人
第18回	平成26年7月5日	「認知症」	森本 一成 先生 新阿武山病院大阪府認知症疾患医療センター	30人
第19回	平成26年12月6日	「関節リウマチ治療の最前線」	小田 幸作 先生 高槻赤十字病院 整形外科部長	20人
第20回	平成27年10月17日	「見直してみよう、糖尿病治療」	竹内 徹 先生 北摂総合病院 糖尿病内科医長	30人

教務課

■学位授与

[博士]

博士(論文)

論博薬科第69号 博士(薬科学) 清水 佐紀
セロトニン5-HT_{1A}受容体を介する錐体外路障害の
発現調節機構に関する研究(平成27年8月3日付)

論博薬科第70号 博士(薬科学) 上田 廣
非晶質薬物の固体物性に関する物理化学的因子の
解明に関する研究(平成27年11月25日付)

論博薬科第71号 博士(薬科学) 米山 弘樹
S-アルキル-N-アルキルイソチオウレアの新規合成
法の開発とヒスタミンH₃受容体アンタゴニストの
創製に関する研究(平成27年11月25日付)

論博薬科第72号 博士(薬科学) 植村 雅子
制がんテトラゾラト架橋白金(Ⅱ)二核錯体の
DNAとの相互作用および細胞内取り込みに関する
研究(平成27年11月25日付)

入試課

■ オープンキャンパス2015報告

夏のオープンキャンパス2015（8/1、2、23）は、天候にも恵まれ3日間で1,966名の受験生、ご父母にご参加いただきました。さらに秋のオープンキャンパス（10/3）も190名のご参加があり、春（3/21）の260名を含めると年5回の開催で2,416名の参加者数となりました。

学生は主に「キャンパスツアー」や「在学生による個別相談コーナー」で活躍し、D棟実習施設や図書館等の見学に協力していただきました。受験生には、学生の「生の声」が聞けると大変好評でした。大阪薬科

大学の代表として、明るく、元気に対応していただき、大学広報の一翼を担ってくれました。

そのほかに、入試対策講座、模擬実験、卒業生の話、薬用植物園の見学等、大学案内パンフレット等からでは伝わらない大阪薬科大学の魅力に触れていただきました。

参加者からのアンケート結果では、「キャンパスや実習施設がとてもきれい!」「ランチがすごくおいしかった!」と受験生、ご父母とも大変好評でした。

最近のオープンキャンパスは、土、日曜日に開催しており、ご父母の皆様にも多数ご参加いただき、受験生と一緒に楽しんでいただける本学恒例のイベントとして定着しています。

○キャンパスツアー



オープンキャンパスでは一番人気のイベントで、ほぼ全ての来場者が参加します。

○入試説明会



政田学長からの挨拶の後、入試概要や進路・就職状況について説明しました。

○アンケート



参加者からの貴重なご意見を今後のオープンキャンパス運営に活かしています。

○個別相談



教員が相談員を担当し、受験生やご父母からの入試概要、カリキュラム、進路・就職など幅広い質問に対応しました。

○在学生による個別相談



「教職員にはちょっと聞きにくい学生生活などの質問も、在学生には気軽に聞ける」と受験生やご父母から好評でした。

○薬用植物園見学会



谷口教授（薬用植物園長）のご協力を得て開催し、約30名の参加がありました。

※春のオープンキャンパスは、平成28年3月26日(土)を予定しています。

臨床教育・研究支援課

■大阪薬科大学研究シーズ集2015を発刊しました

本学では、教育・研究を通じて得られた研究成果を広く社会に還元し、「社会貢献」や「産学官連携」を推進することを目的として「大阪薬科大学研究シーズ集2015」を発刊しました。

研究シーズ集は本学教員の「研究分野」や「研究概要」、「研究の特徴・独自性」、「今後の発展性」、「産学連携の可能性」などについて、分かりやすく紹介しています。

シーズの状態は「種」の状態であり、具体的に製品やサービスに変換していくことが必要となります。

学 生 課

■1年次生の長谷井和真

第69回関西薬学生連盟硬式庭球大会 男子シングルス優勝！



今年の関西薬学生連盟硬式庭球大会は、8月9日から8月17日の9日間、石川県藤波運動公園能都健民テニスコートにおいて開催されました。会場は思った以上に広く独特な雰囲気にもまれていました。私は初めての出場だったので、とても緊張していましたが自分のやれることは全てやりきろうと思い、試合に臨

この研究シーズ集が、産学官連携活動をはじめ、新たな研究開発の一助となることを期待しています。

■平成27年度実験動物慰霊祭を執り行いました

平成27年12月16日(水)12時20分よりC105講義室において、平成27年度実験動物慰霊祭を執り行いました。

慰霊祭は、教職員及び学生等、参列者全員が黙祷を行った後、政田学長及び大野動物関連研究施設運営委員長から挨拶と慰霊のことばが述べられました。

次いで、大喜多動物関連研究施設管理責任者から、実験動物飼育状況等について報告がありました。

最後に、尊い命を捧げてくれた実験動物の冥福を祈り、参列者全員が献花しました。

みました。

シングルストーナメントを勝ち上がっていくと、相手はどんどん強くなり、体力的にもきつくなってきて、だんだん試合に苦戦するようになってきました。

しかし、同学年の仲間や先輩方の応援やアドバイスにより、最後まで負けることなく、シングルスで優勝することができました。優勝した時の喜びは今でも忘れることはできません。

ボーラーをしてくれた同学年の部員や、アドバイスや応援をしてくださった先輩方には本当に感謝しています。

これからも良い成績を残せるように、さらに頑張っていこうと思います。

「関西薬連・全国薬連大会」結果（平成27年度）

◎関西薬連大会

注) ○内は学年

部 名	団 体	個 人
硬式庭球部	男子：7位	優 勝：長谷井和真① ベスト8：佐藤悠大③ ベスト16：山本龍也③・高田慎也③
	女子：5位	
硬式野球部	準優勝	
サッカー部	3位	
柔道部	男子：準優勝	優勝：(有段の部)横田健司① 3位：(有段の部)松原佳紀②
ソフトテニス部	男子：優勝	男子ダブルス／2位：梅本康平③・飯田侑樹③ 3位：福永悠介②・榊田佳和② ベスト8：増田章秀⑥・野田拓誠⑥
	女子：優勝	女子ダブルス／3位：出利葉 舞③・辻本麻有③ ベスト8：永田理香子②・西川友萌② ベスト16：生田稔野里③・長崎 葉②・井上咲季子②・南 佐智②
卓球部	男子：—	
	女子：予選敗退	女子シングルス／ベスト16：石谷有梨佳② 女子混合ダブルス／ベスト8：石谷有梨佳②
バドミントン部	男子：12位	男子ダブルス／ベスト16：海老野大地⑤・松本雄稀④
	女子：優勝	女子シングルス／優勝：西田智美① ベスト8：赤尾美乃里① 女子ダブルス／ベスト8：西田智美①・赤尾美乃里① 女子新人戦／ベスト8：李 娜炅①
バレーボール部	男子：9位	
	女子：4位	

部 名	団 体	個 人
陸 上 競 技 部	男 子：予選敗退	男子1500m／3位：延山貴信① 100m／優勝：植野瑛士① 4×100mリレー／準優勝：光野悟史①・岡田悠佑①・清水章太郎①・植野瑛士①
	女 子：予選敗退	800m／3位：延山貴信① やり投／優勝：末澤勇人① 女子円盤投げ／準優勝：豊嶋真那枝①

◎全国薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男 子：予選敗退 女 子：—	
ソフトテニス部	男 子：準優勝 女 子：3位	男子ダブルス／ベスト16：梅本 康平③・飯田 侑樹③ 女子ダブルス／ベスト4：出利葉 舞③・辻本 麻有③ ベスト16：永田理香子②・西川 友萌②
卓 球 部	男 子：予選敗退 女 子：予選敗退	
バスケットボール部	男 子：ベスト8 女 子：予選敗退	

■献血者の推移

毎年5月と11月の年2回、大学構内において献血を実施していますが、献血者の人数が減少傾向にあります。

医学が進歩した現代においても、人間の生命を維持するために欠くことのできない血液は人工的に造ることはできません。現在の医療現場では必要とされる血液製剤の数が不足していますので、皆様のご協力をお願いします。

なお、来年度の献血は5月と9月を予定しています。

実施日	200cc	400cc	合 計
H27/11/12(木)	7 (9)	29 (40)	36 (49)
H27/ 5 / 8 (金)	12 (19)	51 (64)	63 (83)
H26/11/13(木)	7 (11)	36 (48)	43 (59)
H26/ 5 / 8 (火)	8 (14)	55 (67)	63 (81)
H25/11/ 5 (火)	3 (4)	16 (26)	19 (30)
H25/ 5 /30(木)	11 (16)	24 (29)	35 (45)
H25/ 5 /29(水)	11 (17)	41 (53)	52 (70)
H24/11/29(水)	16 (26)	45 (69)	61 (95)
H24/11/27(火)	11 (22)	35 (53)	46 (75)
H24/ 5 /29(火)	15 (24)	51 (78)	66 (102)

()は受付数 ※受付数は、受付時の検査で血液の比重不足等により献血できなかった人を含んだ人数です。

■奨学生状況

1. 日本学生支援機構

平成27年12月現在

区 分	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	大学院	大学院	合 計	
							(博士前期課程)	(博士後期課程)	(4年制課程)		
第一種	人 数	43	53	57	50	38	37	5	1	4	288
	月 額	30,000円*又は54,000円 30,000円*又は64,000円					50,000円* 又は 88,000円	80,000円*又は122,000円			
第二種	人 数	72	77	61	78	72	76	0	0	0	436
	月 額 (薬学課程増額月額)	3万・5万・8万・10万・12万円から選択 (12万円を選択した場合は2万円の増額可)					5万・8万・10万・13万・15万円から選択				
合 計	115	130	118	128	110	113	5	1	4	724	

*印の金額は、平成21年度採用者から選択可

2. 本学独自の奨学金制度

名 称	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	合 計	給付・貸与
大阪薬科大学一般奨学金	30,000	17	8	13	9	9	4	3	63	給付
大阪薬科大学特別奨学金	50,000	15	14	16	15	7	4	0	71	一部給付
大阪薬科大学育友会奨学金	40,000又は80,000	1	2	2	4	1	2	0	12	貸与
合 計		33	24	31	28	17	10	3	146	

3. その他の育英・奨学会 (本学を通して推薦している奨学金)

名 称	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	合 計	給付・貸与
(公財)小野奨学会	学 部 30,000 大学院 60,000	4	7	9	8	6	11	0	45	給付
(公財)佐藤奨学会	25,000	0	0	3	0	0	0	0	3	給付
(公財)大東育英会	20,000	0	1	1	0	0	1	0	3	給付
(公財)河内奨学財団	40,000	0	0	0	2	0	0	0	2	給付
合 計		4	8	13	10	6	12	0	53	

■公益財団法人小野奨学会による表彰

公益財団法人小野奨学会から毎年10名近くが奨学生（給付）として採用されています。今年は、昨年

に引き続き同奨学会より1名の学生が学業成績優秀者として表彰されました。



（公財）小野奨学会 平成26年度優秀者表彰式

■平成27年度父母懇談会

10月3日（土）から12月5日（土）にかけて、学外会場と本学の計5会場で9回目の父母懇談会が開催されました。今年は約350名のご父母が参加されました。本学会場ではアドバイザーとの面談も実施し、約80組のご父母が担当アドバイザー等と面談されました。



父母懇談会 大阪（梅田）会場

■国際交流を応援します

本学には創立百周年を記念して設けられた国際交流基金が整備されています。私費外国人留学生の受入や、外国人研究者等の招聘だけでなく、国際学会での発表や、学部生の身近なところでは、語学留学や海外研修などの費用を対象としています。

学生の皆さんの場合、国際交流に必要な英語力を身につけるため、夏季、春季の休業中に2～5週間程度の語学留学をお勧めしています。国際交流に関する窓口は学生課です。制度の概要や過去に助成を受けた学生等の報告書をホームページに掲載していますの

で、申請を考えている方はご覧ください。助成を受けるためには、事前に所定の申請様式（ダウンロード可）により学生課に申請してください。国際交流委員会での審査を経て採択されれば助成金が支給されます。

HOME > 教育・研究 > 国際交流

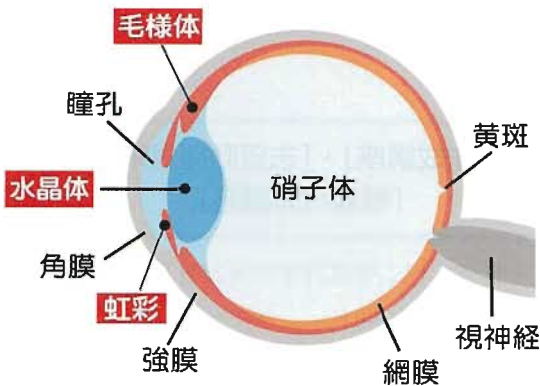
<http://www.oups.ac.jp/gakujutsu/kokusaikoryu/index.html>
 なお、語学留学のパンフレットなどを準備していますので、具体的な地域（アメリカ、イギリス、オーストラリア等）や金額などについて遠慮なく相談してください。

事業内容	助成額
海外語学留学・海外研修旅行	10万円／人を限度に対象経費の50%を助成
国際学会等発表	15万円／人を限度に対象経費の80%を助成
私費外国人留学生	50万円／人を限度に助成
外国人留学生招聘	25万円／人を限度に助成
その他国際交流に必要な事業	20万円／人（件）を限度に助成

～健康管理支援室から～

「スマホ老眼」知っていますか？

眼の構造



©minacolor

★毛様体

水晶体の周りを取り囲む組織で、水晶体を支えている。毛様体筋が水晶体の厚さを調節し、光の屈折を変えてピント調節をする。

*チン氏帯（毛様小帯）は毛様体と水晶体の間を結び水晶体を支えるはたらきをしています。また、毛様体の筋肉（毛様体筋）と協力して、遠くや近くを見るときに水晶体の厚さを変えるはたらき（調節作用）をしています。

- ・調節緊張時間⇒近くのものを見るのにかかる時間（約1秒くらい）。
- ・近くのものを見るとき、毛様体筋がちぢみ、チン氏帯がゆるんでレンズはまるみと厚みをもち、屈折力を増します。
- ・調節弛緩時間⇒遠くのものを見るのにかかる時間（約0.6秒くらい）。
- ・遠くのものを見るとき、毛様体筋がゆるんでチン氏帯がひっぱられレンズを平たくします。

★水晶体

光を屈折させ網膜に像を結ぶ。透明で弾力性に富んでいる。

*水晶体は毛様体筋であるチン氏帯の調節作用によって厚さを変え網膜に像を結ぶ。

なお、遠くや近くのものを見るとき、焦点を合わせるのにかかる時間を調節時間といいます。

◎老眼とは、加齢による〔毛様体（筋）〕の筋力低下や〔水晶体〕の弾力性低下で、水晶体のピント調整がうまくいなくなり網膜に像のピントが合わなくなった状態をいいます。

◇『水晶体の弾力性低下』は、眼の中の『老廃物』が年々蓄積され、それが水晶体の繊維の間に入り込むことなどが主な原因とされています。

◇『毛様体筋の筋力低下』は、『加齢・酷使』が大きな要因の1つといわれています。

*症状は

- ①本・新聞の字が見えにくくなる（特に薄暗い夕方や雨の日）。
- ②眼が疲れやすい。
- ③頭痛・眼痛がする。
- ④肩こりがするようになる。

スマホ老眼

医学用語ではありません。

★パソコンやスマートフォンの普及で長時間、眼を酷使することによって、薄暗い夕方や雨の日に、近いところが見えにくい、遠くがかすんで見える、眼が疲れやすい、眼痛、頭痛等の症状が子供～30代で『加齢による老眼』と同じ症状が現れる病的変化をいいます。

*特にスマートフォンの場合、眼との距離が近く、小さな画面で文字を凝視したり、画面内での拡大・縮小などの動作が眼の毛様体筋の負担増になり調節作用が衰え水晶体のピント調整の不具合が起きやすく、老眼症状も出やすい。

肩や首が前屈状態（スマホ巻き肩／スマホ首）による筋肉の痛み、こり、特定の指の痛み（スマホ指）など同じ姿勢での使用で様々な身体の病的症状が出現している。

スマートフォンの場合、普及してまだ数年しかたっていない。『文明の利器』が『健康の危機』にならないように、使う姿勢、眼との適度な距離、時間、場所などを考えて活用してください。一言、『歩きスマホ、もれなくケガがついてくる』…歩きスマホも危険です！

（参考資料：読売新聞）



＜国際医療福祉大学熱海病院講師の田野先生のお勧め対処法＞

キャリアサポート課

2016年卒の就職活動から採用情報の解禁は卒業・修了前年度の3月、選考開始・内定出しは卒業・修了年度の8月以降となりました。このような中、キャリア

「自己分析講座」・「内定者を囲む会」

- ・日 程：平成27年9月5日(土)
- ・参加者数：60名

学生の皆さんが就職活動を行う上で、自己分析を深めることは大切なことです。自己分析とは自分を知ることです。自分の能力・興味・価値観を知ることによって自分に合った就職先を選ぶことはもちろん、選考段階において問われる志望動機や自己PRを作成する際の土台となります。「自己分析講座」を受講後、自己分析の必要性と方法を理解し実践できるようになることを目的に実施しました。

また、「内定者を囲む会」には各種業界ごとに内定を得ている現6年次生の協力のもと、直近の就職活動を実際に体験した話を聞く機会として実施しました。



サポート課では、平成27年8月21日に実施したセミナー時に2017年卒業予定の学生からアンケートを取り、就職活動準備として実施要望の高かった講座を以下の日程・内容で実施しました。外部講師による講座は学ぶことの多い、充実した内容となっています。

「自己PR作成講座」・「志望動機対策講座」・「情報収集講座」

- ・日 程：平成27年10月24日(土)
- ・参加者数：90名

自己PRや志望動機は選考段階で問われる重要な項目です。「自己PR作成講座」は自己分析をもとに自分の強みや学生時代に力を入れたことを具体例とともに表現することを目的に実施しました。また、「志望動機対策講座」も自己分析をもとに就職先選びと魅力的な志望動機の作成方法を理解し、表現することを目的に実施しました。両講座ともグループワークを取り入れ、他者の視点や意見に触れ視野を広げることで自分の考えを深めるよう促しています。さらに、「情報収集講座」では今年度の業界ごとの選考状況等を紹介し、事前準備の大切さを説明しました。



図書・情報課

■第7回「学生選書」図書案内について

「学生選書」は、平成24年12月に第1回を実施以後、年2回のペースで継続し、平成27年9月に通算第7回

を実施しました。今回選書された図書のうち、他の学生への「推薦コメント」がつけられている図書の一覧表と、選書に関するアンケート集計結果を掲載しますので参考にしてください。

次回の第8回「学生選書」は、平成28年5月に実施する予定ですので初めての方も気軽に奮ってご参加ください。

第7回「学生選書」図書案内 展示場所：『新着図書』の裏面の書架（3階）

区分	書名	著者・編者名	出版社
専門図書 ①	あらゆる診療科で役立つ皮膚科の薬症状からの治療パターン	梅林芳弘	羊土社
// ②	漢方薬でがん治療はもっと楽になる	星野恵津夫	講談社
// ③	基礎からわかる最新漢方薬入門	関水康彰	技術評論社
// ④	薬がみえる vol.2-代謝系の疾患と薬、内分泌系の疾患と薬、産婦人科系の疾患と薬-	医療情報科学研究所	メディックメディア
// ⑤	診療放射線技師画像診断機器ガイド	中澤靖夫	メジカルビュー社
// ⑥	図解でよくわかる毒のきほん	五十君静信	誠文堂新光社
// ⑦	ねころんで読める呼吸のすべて	倉原 優	メディカ出版
// ⑧	フィジカルアセスメントがみえる	医療情報科学研究所	メディックメディア
// ⑨	本当にあった医学論文	倉原 優	中外医学社
// ⑩	身近な薬草活用手帖	寺内 進	誠文堂新光社
// ⑪	目で見える感染症、見た目どこまで診断できる感染症の画像アトラス	原永修作	羊土社
// ⑫	薬学教室へようこそ	二井将光	講談社
// ⑬	薬学生・薬剤師レジデントのための感染症学・抗菌薬治療テキスト	石井良和	じほう
// ⑭	薬学ドリル（計算問題出題パターン30）	メディカル教育出版	メディカル教育出版
// ⑮	薬学ドリル（有機反応最重要厳選60）	メディカル教育出版	メディカル教育出版
// ⑯	薬剤師のための患者対応の知識	中村敏明	医薬ジャーナル社
実用図書 ①	感情的にならない話し方のコツ	渋谷昌三	ばる出版
// ②	ブラックバイト	大内裕和	堀之内出版
// ③	誰もがその先を聞きたくなくなる理系の話大全	話題の達人倶楽部	青春出版社
// ④	わたしの明日が変わる！ アドラーの知恵	星 一郎	海竜社
一般図書 ①	家族スクランブル	田丸雅智	小学館
// ②	君の臓腑をたべたい	住野よる	双葉社
// ③	Ghost boy（洋書）	Martin Pistorius	Simon & Schuster
// ④	消費社会の神話と構造	ジャン・ボードリヤール	紀伊國屋書店
// ⑤	スペードの3	朝井リョウ	講談社
// ⑥	超高速！ 参勤交代	土橋章宏	講談社
// ⑦	True tales of American Life（洋書）	Paul Auster	Faber and Faber
// ⑧	火花	又吉直樹	文芸春秋
// ⑨	ワンター	R・J・パラシオ	ほるぷ出版
// ⑩	犬は勘定に入れません（上・下）	コニー・ウィリス	早川書房
// ⑪	エベレストを越えて	植村直己	文芸春秋
// ⑫	虐殺器官	伊藤計劃	早川書房
// ⑬	コインロッカー、パイプーズ	村上 龍	講談社
// ⑭	青春を山に賭けて	植村直己	文芸春秋
// ⑮	世界がわかる理系の名著	鎌田浩毅	文芸春秋
// ⑯	絶対貧困	石井光太	新潮社
// ⑰	人間小唄	町田 康	講談社
// ⑱	百万の手	畠中 恵	東京創元社
// ⑲	ふるさと銀河線	高田 郁	双葉社
// ⑳	ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七月隆文	宝島社
// ㉑	未踏峰	笹本稜平	祥伝社
// ㉒	笑うな	筒井康隆	新潮社

【第7回学生選書アンケート集計結果】

このたびは第7回「学生選書」へのご参加、ありがとうございました。今後の「学生選書」をより良いものにしていくための参考にさせていただきますので、下記アンケートにご協力ください。

参加者：16名（男3名、女13名）（1年6名、3年1名、4年9名）（ブックセンター選書3名、インターネット選書13名）

回答者：16名（同上）

※該当するものに○印をしてください。

1. 今回の学生選書を何で知りましたか？（*複数回答可）
①掲示（13） ②図書館HP ③友人から（3） ④その他（ ）
2. 今回の日程（9月中旬～）はいかがでしたか？
①良かった（16） ②良くなかった
3. 今後の実施時期はいつ頃がよいですか？（*複数回答可）
①5月下旬～6月上旬（10） ②6月中旬～下旬（1） ③夏休み（8月）
④夏休み（9月）（3） ⑤10月下旬～11月上旬（5） ⑥11月中旬～下旬（1）
⑦12月上旬 ⑧その他（5月の連休中）（1）
4. 今回の選書冊数は何冊でしたか？
①1～5冊（4） ②6冊～10冊（4） ③11冊～15冊（6） ④16冊～（2）
5. 今回の選書金額（20,000円）は適当でしたか？
①多い（希望額： 円） ②適当（16） ③少ない（希望額： 円）
6. 今回の特典（1,000円分の図書カード）は適当でしたか？
①多い ②適当（14） ③少ない（2）
7. 次回の選書も参加したいですか？
①参加したい（16） ②参加したくない
8. 今回の学生選書について良かった点、悪かった点など、感想・意見を自由に記入してください。
 1. 大学生になって本を読む機会が少なくなっていたので、今回の学生選書で本を読むことができ、うれしく思います。
 2. 何度か「学生選書」に参加させていただいていますが、自分以外の人を選んだ本を見てみると、様々な種類があり毎回楽しんでます。ぜひ、今後も続けてほしいです。
 3. 初めてのインターネット選書でしたが、とても便利に利用できました。取り寄せていただく手数も減りましたし、注文の合計金額が分かる点でも良かったです。次回もぜひ参加したいです。
 4. 今回はインターネット選書で参加させていただきましたが、とてもやりやすくて助かりました。

■図書館への寄贈資料一覧

平成26年度以降の図書館への寄贈資料を一覧表にまとめました。

各ご寄贈に対し厚く御礼申し上げます。

寄贈された資料は、本館の所蔵資料として大切に保管し、寄贈の意図に添いたいと思います。

寄贈日	寄贈者氏名(敬称略)	寄贈資料名	所蔵場所
平成26年4月14日	川島 康生	「Circulation Journal」vol.76, No.7～12(2012)～vol.77, No.1～12(2013)	第4閲覧室
平成26年6月4日	笠原 伸元	「生体微量元素」	第3閲覧室
平成26年12月8日	昭和薬品化工(株)	「感受性ディスク法の基礎と臨床」	第3閲覧室
平成26年12月8日	川島 康生	「Circulation Journal」vol.78, No.1～12(2014)	第4閲覧室
平成27年1月8日	川島 康生	「Journal of Arrhythmia」vol.28(2012)～vol.30(2014)	第4閲覧室
平成27年6月29日	川島 康生	「Circulation Journal」vol.79, No.1～6(2015) 「Journal of Arrhythmia」vol.31, No.1～3(2015) 「Journal of Cardiology」vol.64(2014)～65(2015)	第4閲覧室
平成27年7月7日	藤田 直	「医者ムラの真実」他28冊	第2閲覧室
平成27年11月10日	藤田 直	「創薬が危ない」他49冊	第2閲覧室

第4回

学術講演会
大阪薬科大学

in
東京

2016年2月21日(日)

14:00~17:00

尚、17:00より懇親会をいたします。

場所 第一ホテル東京

東京都港区新橋 1-2-6 TEL 03-3501-4411

特別
講演

「最近の添付文書に記載される
薬物動態支配因子に関する
情報とその活用」

大阪薬科大学薬剤学研究室
教授 永井 純也 先生

招待
講演

「医療の質を測り改善する
—聖路加国際病院の試みと
国内外の状況—」

聖路加国際病院 院長・聖路加国際大学 理事長
福井 次矢 先生

学術講演会参加費：無料

懇親会参加費：10,000円

定員：100名（先着順）

問合先：大阪薬科大学同窓会事務局

TEL 072-690-1099（月～金 13時～17時）

E-mail : dosokai@gly.oups.ac.jp

（日本薬剤師研修センター受講シール1点配布いたします）

後援：公益社団法人 日本薬剤師会

●主催 大阪薬科大学
大阪薬科大学同窓会

薬 用 植 物 の 紹 介

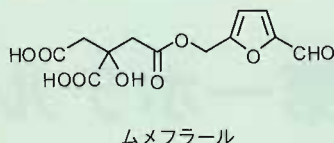
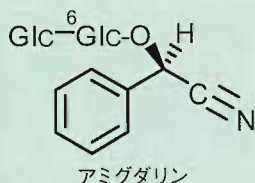
ウメ *Prunus mume* Sieb. et Zucc. (バラ科)薬用植物園長 教授 谷口 雅彦
薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介

ウメは、中国原産で庭木や果樹として一般的によく知られた樹木である。高さは6mほどになり、秋になると落葉する。幹は枝分かれが多く、古い枝には小枝の変形したとげがある。葉は互生して柄があり、早春に葉よりも早く葉腋に1~3個の白色または紅色の花が咲き、芳香を放つ。実には毛があり、梅雨頃には黄色く熟す。幹の中心部を含む大部分が腐っても、皮の部分だけで生きることができる。また、根も切り詰めることができるため、2mの高さのものを小さな鉢に収めた盆栽もある。大変、生命力の強い樹木である。ウメの産地と言えば、和歌山県を思い浮かべると思うが、その収穫量は全国の60%以上になる。これは、江戸時代の田辺地方では、土地がやせていて作物が育てにくかったため、紀州田辺藩がそのような荒地は免税とし、ウメの栽培の推奨と保護政策を行ったので栽培が盛んになった。

日本への伝来が何時なのか定かでないが、万葉集にウメの歌が100首以上収載されていることから、奈良時代にはすでに一般化していたとされる。花の季節は2月中旬から3月ごろまでで旧暦の正月以降にあたる。当時の貴族はウメで花見を行っていたが、寒い時期なので屋外での花見は厳しかったと想像できる。本来、正月の門松の松竹梅は、梅の花はほころんでおり、新年の訪れを告げる花としてめでられていた。また、平安時代にサクラが伝来すると、徐々にサクラで花見をするようになり、江戸時代ではサクラの花見が流行し一般的になっている。

ウメの名前の由来は、梅の中国語読みのメイや韓国語読みのマイが訛ったものやウメの果実から作られる生薬の烏梅(ウバイ)の中国語読みのウーメイからウメに転じたものなどの説がある。また、理由は分からないが、平安時代ごろにはムメと呼ばれるようになり、明治に至るまでムメと呼ばれている。しかしその後、論争が起こり、現在のウメに落ち着いた。学名の *mume* は、江戸時代に訪れたシーボルトが、当時の日本人が呼んでいた名前をそのまま付けたものである。

ウメの果実は食用として梅干や梅酒などに加工されるほか、薬用として未熟果実を果肉が黒くなるまで弱火で煎り、乾燥させたものが生薬の烏梅



ウメの花



ウメの果実



烏梅

となる。この生薬がカラスのように真っ黒なことから烏梅と名付けられたとされ、慢性の咳、慢性の下痢、のどの渇き、回虫の駆除、止血などに用いられる。漢方処方としては、烏梅丸、椒梅湯、杏蘇散などに配合されている。また、民間薬としては、未熟果実の果肉を擦りおろして搾り、弱火でアメ状になるまで煮詰めたものが梅肉エキス(梅肉膏)であり、下痢や食中毒に用いられてきた。近年では、病原性大腸菌 O-157 による食中毒の予防や赤痢菌、コレラ菌、MRSA、サルモネラ菌などに対する抗菌作用が報告されている。

主要成分は、有機酸のクエン酸、リンゴ酸、コハク酸、酒石酸などやトリテルペンのオレアノール酸である。また、未熟果実の果肉には青酸配糖体のアミグダリンを、梅肉エキスには加熱過程で生成してくるムメフラールを含んでいる。アミグダリンは、酵素分解により青酸を生成するため青ウメを食べたときの中毒を起こす原因物質であり、ムメフラールには、毛細血管の血流状態を改善することが報告されている。

梅干は食用以外に、頭痛時に果肉をこめかみに貼り付けたり、種子を天神様と呼び頭が良くなると食べられてもいた。

食用や薬用以外に烏梅は、紅花染めに用いられる。紅花染めでは、紅花の紅色色素のカーサミンは水に溶けず、アルカリ性のアカザの灰汁で抽出し、これに布を浸す。次に酸性の烏梅抽出液を加え、中和するとカーサミンが繊維に染着し、紅色を発色する。

参考

- 「牧野新日本植物図鑑」(北隆館)
- 「薬草カラー図鑑」(主婦の友社)
- 「読みもの 漢方生薬学」(たにぐち書店)
- 「漢方のくすりの事典」(医歯薬出版)